

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等克服研究事業）
分担研究報告書

腸管不全・小腸移植病理の中央診断に関する研究

（H24-難治等（難）-一般-015）

分担研究者 森井 英一 大阪大学大学院 医学系研究科 病理学 教授

研究要旨

【研究目的】 他の臓器と比較して拒絶反応を起こしやすい小腸移植においては、その成績向上を図るためには病理診断は重要である。症例数の少ない小腸移植の知識の共有化と標準化を図るために中央病理診断を導入するものことを目的とする。

【研究方法】 小腸移植登録施設より病理標本を事務局ないしは中央病理診断施設に送付を行う。Web 上で各病理医が小腸移植登録 CRF に入力する。国内において脳死小腸移植、あるいは生体小腸移植を受けた全症例に対して登録を行っている。当面は中央病理診断を必要とする病理標本のみを登録を行う。

【研究結果】 2013年8月より小腸移植症例 Web 登録を開始した。小腸移植症例登録システムが稼働したのちに小腸移植が実施されていないため現在は登録を待っている。

【結論】 今回、初めて小腸移植症例登録、並びに中央病理診断システムを稼働した。現在、腸管不全の患者登録、並びに小腸移植患者の登録を行っているので、より詳細な結果が明らかになると思われる。

